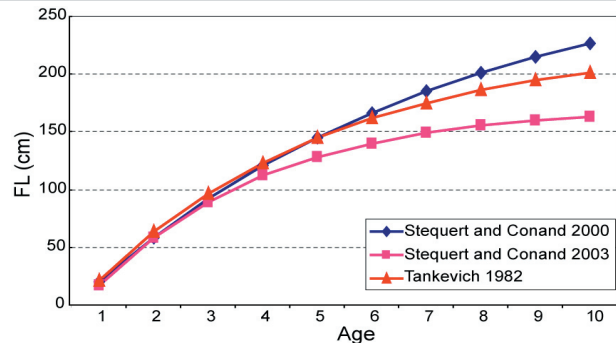
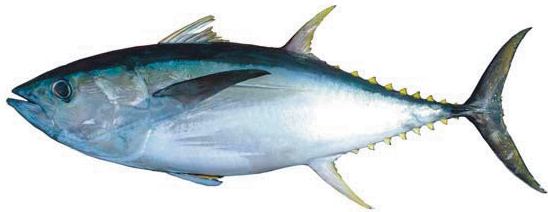


# メバチ インド洋

## Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*



インド洋メバチの成長式 (Stequert and Conand 2003)

### 管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

### 最近一年間の動き

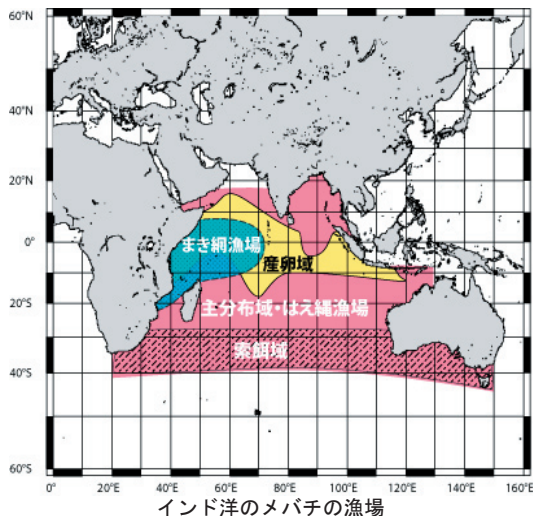
総漁獲量は1999年のピーク (15.1万トン) から年々減少傾向にあるが、2006年に11.2万トンと最低レベルとなった。2007年は11.7万トンと微増した。

### 生物学的特性

- 寿命：10～15歳
- 成熟開始年齢：3歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：4～9月に南半球温帯域に現れるほか、温帯域と熱帯域を複雑に回遊
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：さめ類、海生哺乳類

### 利用・用途

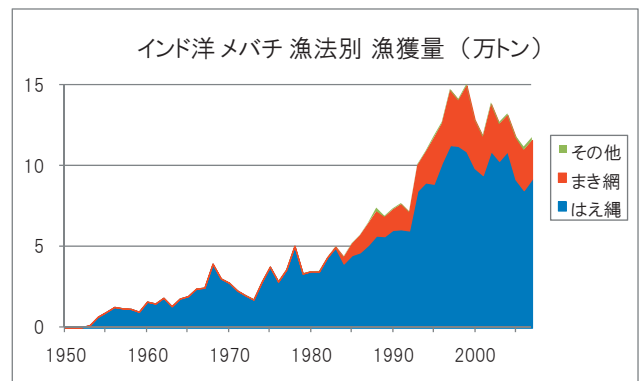
刺身や缶詰原料



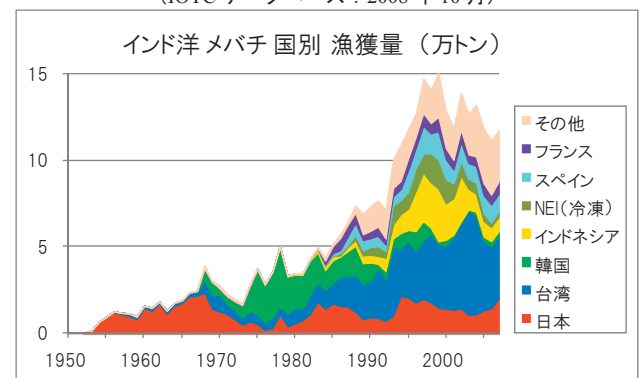
インド洋のメバチの漁場

### 漁業の特徴

本種ははえ縄 (2歳以上対象) とまき網 (0～1歳対象) で主に漁獲される。本資源の漁業は、1952年にジャワ島南部海域で日本のはえ縄漁船が開始した。その後、台湾・韓国・インドネシアのはえ縄漁船がそれぞれ1954・1965・1973年から参入した。最近10年の漁法別総漁獲量は、はえ縄が7～8割、まき網が2～3割となっている。まき網開始 (1984年) 前は、大半の漁獲は2歳魚以上であったが、まき網開始後、0～1歳の漁獲尾数が急増し、最年では総漁獲尾数の7割近くを0～1歳が占める。



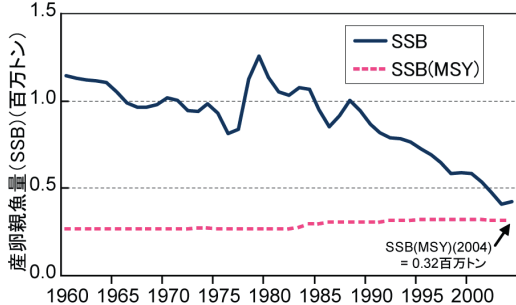
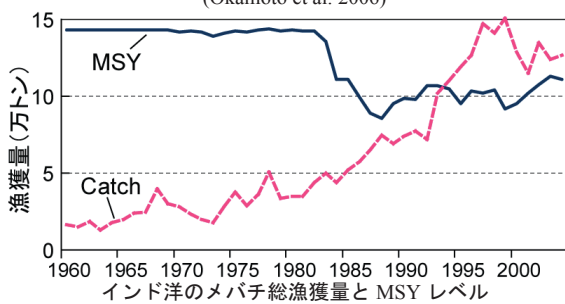
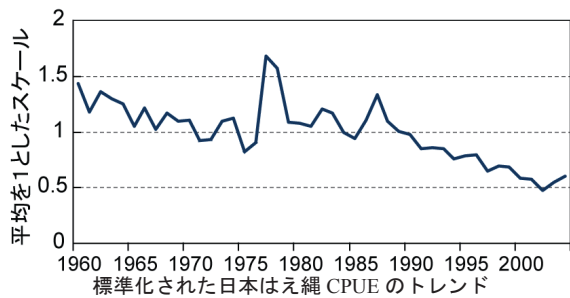
本資源の漁法別漁獲量 (1950-2007)  
(IOTC データベース：2008年10月)



本資源国別漁獲量 (1950-2007)  
(IOTC データベース：2008年10月)

漁業資源の動向

はえ縄による漁獲量は、操業開始以来緩やかに増加し、1978年に4.9万トンに達した。その後は1992年までは、3.3万～6.1万トンの間で増減したが、翌年から急増し、1997年には11.2万トンのピークに達した。しかし、1998年からは減少傾向にあり、2005年には8.5万トンになった。一方、まき網漁業は1984年より西部インド洋で本格的に始まり、漁獲量は徐々に増加し、1999年には4.1万トン（ピーク）に達したが、その後減少し2005年には2.8万トンとなった。まき網の主要漁業国はスペイン・フランスである。総漁獲量は、1986年までの6万トン以下から徐々に増加し、1993年に10万トン台、1999年に15万トン台（ピーク）に達した。その後、2000年から減少傾向が続き2006年に11.2万トンと最低レベルとなったが、2007年は11.7万トンと微増した。



ASPMで推定されたインド洋のメバチのF（漁獲死亡率）とF<sub>MSY</sub>

資源状態

最近の資源評価は、2006年の第8回熱帯性まぐろ作業部会において、ASPM、SS2などの5種類の資源評価モデルにより、1960～2004年のデータを用い実施した。その結果、ASPMの推定値が採択されSSB(2004)/SSB(MSY)=1.34およびF(2004)/F(MSY)は0.81といった結果が得られた。したがって、MSYの推定値は11.1万トンで漁獲量は15年間（1993～2007）MSYレベルを超えた状態が継続し、過剰漁獲状況にある。しかし、2007年には11.7万トンにまで急減しほぼMSYレベルに落ち着いた。以上より、メバチの資源状況は、MSYレベルにあるとみられる。

管理方策

メバチの資源管理方策として、全漁業（はえ縄・まき網が大半）の漁獲量をMSYレベルまでに削減、漁獲努力量は2004年レベルを超えない、FADsを利用したまき網漁業の漁獲努力量を削減、台湾の漁獲割当3.5万トン、といった3点がある。一般的な管理方策として以下の項目が決議として採択されている。IUU漁業廃絶、混獲緩和、洋上転載オプザバー乗船(2008年8月より)、VMS搭載義務(2007年7月より)、漁船数(24m以上)増加禁止、他国漁船の受入制限、はえ縄船トリポール使用(南緯30°以南)、漁船登録:IMO番号追加、まき網船ログブック最低情報収集の義務、漁獲努力量の凍結、24m以下の小型船へのポジティブリスト適用。

資源評価まとめ

- MSY11.1万トン
- 1993～2007年においてMSYを越えた過剰漁獲
- FADs使用のまき網で小型個体の過剰漁獲の懸念

資源管理方策まとめ

- (メバチ資源管理\*)
- 漁獲努力量の凍結
  - 漁獲量をMSYレベル(11.1万トン)まで削減
  - 台湾はえ縄漁獲割当(上限3.5万トン)
- (一般管理項目)
- IUU漁業廃絶
  - 混獲緩和
  - 洋上転載オプザバー乗船(2008年8月より)
  - VMS搭載義務(2007年7月より)
  - 漁船数(24m以上)増加禁止
  - 他国漁船の受入制限
  - はえ縄船トリポール使用(南緯30°以南)
  - 漁船登録:IMO番号追加
  - まき網船ログブック最低情報収集の義務

(\*) 1960-2004年の情報を用いた資源評価結果に基づく

メバチ(インド洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	中位
資源動向	減少
世界の漁獲量(最近5年間)	11.2～13.3万トン 平均:12.2万トン
我が国の漁獲量(最近5年間)	1.1～2.0万トン 平均:1.4万トン